

渡邊威人さんが新潟県知事賞を受賞しました

11月4日、弥彦神社にて開催されました、第58回新潟県森林まつりにおいて、優良林分育成コンクールの中で新潟県知事賞を受賞されました。

渡邊さんは、自身が所有する杉林を長年にわたり管理し、優良な杉林の団地化に努められた功績により表彰されたものです。



地域在来の生きものを守る活動

■外来魚の駆除活動が行われました

9月から10月にかけて、羽二生（沢根）地区、羽茂大石地区のため池に生息する外来魚の駆除活動が行われました。

市内には近年、「ブラックバス」や「ブルーギル」などの外来魚が人為的に導入され、ため池やダム湖で急速に増えています。これらの外来魚は、メダカ、カエル、トンボの幼虫など、水域に棲む在来の生きものを圧迫し、生態系に甚大な被害を及ぼす「侵略的外来生物」として知られています。

あらかじめ排水されたため池では、次々と外来魚が確認され、参加者はその多さに驚いていました。

外来種の問題は、放流や人為的導入により発生します。もともとあった佐渡の生きものつなかりに甚大な被害を及ぼすので、「入れない、捨てない、拡げない」ことが原則です。皆さまのご協力をお願いします。

※ブラックバス、ブルーギルは「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」により、「特定外来生物」に指定されています。飼育・栽培・生きたままの運搬・販売などは法律で禁止されています。その他、動物ではウシガエル、植物ではオオキンケイギク、オオハンゴンソウなどが知られています。

■「佐渡在来生物を守る会」について

佐渡の在来・固有の野生生物を守り、在来動植物の生息環境の保全を図り、外来生物による被害を防止することで、次世代に伝えていくことを目的に活動する市民組織「佐渡在来生物を守る会」が、本年6月に設立されました。外来魚の駆除活動や市民参加型意見交換会などを通じて、佐渡の自然を守るために行動している市民組織です。

■インタビュー（佐渡在来生物を守る会代表：品川三郎さん）

島内1,300以上あるといわれるため池やダム湖のうち、50か所以上でブラックバスやブルーギルの生息を確認していますが、生息域は広がっているのが現状です。佐渡は自然豊かな島としての認識がありますが、水面下の外来魚についての実態は、まだまだ知られていません。外来種は、本をただせば大半は人間のなせるわざであり、外来種の被害を防止することは、佐渡市民自らの課題としてとらえています。ブラックバスやブルーギルを放すことは法律でも禁止されています。佐渡の自然を思い、佐渡の皆さんに協力していただきながら、これからも活動を続けていきたいと思っております。



羽二生（沢根）地区の駆除活動の様子



ブラックバス(上)、ブルーギル(下)

